

持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習

— イングランド地理教育「単元事例案」を手がかりにして —

内川 健 (成蹊小学校)

佐藤 克士 (武蔵野大学教育学部)

要 旨

本研究の目的は、持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習の授業構成論を措定するとともに、措定した授業構成論に基づき単元計画を立案し、実験授業を通して、その有効性を検証することである。授業構成論に関しては、地理教育先進国であるイングランド地理教育における「単元事例案 (A Scheme of Work)」の分析を行い、その成果をもとに措定した。また、単元計画に関しては、措定した授業構成論をもとに、小学校第5学年「環境を守るわたしたち—持続可能な観光と街づくり—」を開発し、その有効性を成蹊小学校にて検証した。

キーワード：持続可能な社会の形成者、イングランド地理教育、単元事例案、小学校社会科、観光学習

I はじめに

本研究の目的は、持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習の授業構成論を措定するとともに、措定した授業構成論に基づき単元計画を立案し、実験授業を通して、その有効性を検証することである。このような研究の背景には、2011年のミレニアム開発目標を踏まえ、教育界では「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development)」(以下、ESD)への取り組みが、国際教育活動として展開してきたことが挙げられる。周知の通り、ESDとは、持続可能な将来を想像するために世界規模で取り組むべき教育であり、私たち一人ひとりが世界の人びとと将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な開発を目指して行動を変革するための教育である(卜部, 2011)。こうした取り組みは、2002年の国連総会での「国連持続可能な開発のための教育の10年(2005年～2014年)」(United Nations Decade of Education for Sustainable Development: UNDESD)を皮切りに、

様々な領域で推進されてきた。また、2015年以降は、その後継プログラムとして「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(Global Action Program: GAP)」が同総会において採択され、本プログラムに基づきESDの取り組みを一層推進することが求められている。このような国際的な動きは、わが国の学校教育にも影響を与えている。例えば、2006年に改正された教育基本法を受け策定された教育振興基本法(2008年)において、ESDは重要施策の一つとされた。また、2008年の中央教育審議会では、学習指導要領改訂に関する答申の中で、ESDの取り組みの重要性を指摘した。さらに、こうした流れを受けて、2008年版及び2018年版学習指導要領には、「(社会科教育において)育成すべき資質・能力」や「今後、期待する姿」の具体として持続可能な社会の形成者という概念が改訂の経緯や基本方針の中に示されるようになった(文部科学省, 2008; 2018)。一方、こうした国内外の動向を踏まえ、社会科教育系の学会¹⁾では、例会やシンポジウムのテーマとしてESDが取り上げられるように

なり、どのようにすればESDとしての社会科教育または地理教育の実践となるのかについて議論されてきた。

他方、地理教育先進国であるイギリス（イングランド）では、ESDが地理教育に早くから取り入れ遂行されてきた（志村，2018）。志村（2010）によれば、イギリスでは、『ナショナル・カリキュラム地理』の改訂につれて、環境地理的内容が重視され、2000年版では地理学習が重要な根拠の一つとして持続可能な開発に関する諸問題に焦点をあてた学習であることが挙げられ、その結果、フィンランド、フランス、オランダ、スウェーデンと並んでヨーロッパで最もESDが進んでいる国と指摘されていることを報告している。これまでわが国のイングランド地理教育に関する研究は、中井・岩田（1997）を嚆矢として、数多くの成果が蓄積されてきた。特に、1988年に成立した教育改革法に基づき導入された『ナショナル・カリキュラム地理』の分析は、わが国の社会科地理教育を検討する上で示唆的である。しかし、これらの研究成果については、分析や紹介に留まっており、その成果を学校教育に活用した実践的な研究はあまり見られない（荒井，2015）。そこで本研究では、これらの現状を鑑み、イングランド地理教育の成果を抽出し、その成果を授業づくりに反映させることを通して、上記課題に添えていきたい。

イングランド地理教育の成果を抽出するにあたり、本研究では、観光を取り上げた学習（以下、観光学習）について「単元事例案（A Scheme of Work）」²⁾（以下、「単元事例案」）を対象に分析する。

観光学習を研究対象とする理由は、世界中で国内外の観光が盛んになり、その多様な影響が看過できない状態になったことで、初等段階から観光教育の必要性が叫ばれているからである（安村，2001）。観光教育は、1960年以降、世界規模での観光需要の増大に伴い、観光開発の進展によって環境破壊や文化変容、社会・経済問題等、負の影響が認識されるようになり、それらの克服をめざす“持続可能な観光（Sustainable Tourism）”（以

下、ST）の理念が提唱され、その理念を普及させるために、その必要性が強調されるようになった。上述したESDとSTの概念は、共に持続可能性を志向している点で親和性が高い。ゆえに、観光学習では、持続可能な観光の実現というテーマを取り上げ、それを教育内容として子供に考えさせる学習を展開すれば、上述したESDの理念に迫ることができる。

現在、わが国では2006年の観光立国推進基本法の制定や、2008年の観光庁の設置等の動きを受け、観光立国の実現をめざし、「観光立国教育」や「観光・まちづくり教育」が社会科や総合的な学習の時間を中心に学校教育の中で展開されている。しかし、その多くが「地域自慢」や「お国自慢」を目的としたものがほとんどであり、本来の観光教育がめざすべき目的とは程遠い内容となっている。すなわち、その目的とは、観光が成り立つ構造や観光がもたらす影響（特に負のインパクト）についての認識と、それらの認識を踏まえた、持続可能な観光の実現について思考・判断できる能力の育成である（安村，2001）。その際、玉村（1997）が指摘するように、環境と観光開発を相反するものとして捉えるのではなく、互いに依存するものと捉え、環境を保全してこそ将来にわたって持続可能な観光の開発の実現ができるという認識とその認識に基づく思考力の育成をめざすことが重要である。

一方、イングランド地理教育の「単元事例案」を分析対象とする理由は、観光学習に関して、子供が使用するテキストブックを分析した研究はあるものの（例えば、飯塚，2012；佐藤，2012a；2012b）、『ナショナル・カリキュラム地理』に準拠した「単元事例案」について分析した研究が、上記のそれに比べて少ないからである。教科書検定制度の無いイングランドにおいて、『KEY GEOGRAPHY』シリーズのように「単元事例案」に準拠したテキストブックがベストセラーとなっている現実を踏まえるならば、テキストブックの内容構成の分析とともに「単元事例案」の内容解明もまた重要である。

以上のような理由を踏まえ、本研究では具体的

に、イングランド地理教育における観光学習の「単元事例案」の分析を行い、その成果を参考にして授業構成論を指定するとともに、指定した授業構成論に基づき持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習の単元計画を立案する。

(佐藤克士)

II イングランド地理教育における観光学習

1. 「単元事例案」の内容構成

イングランド地理教育では、観光について学習する単元が13～14歳（わが国の中学校2年生）を対象とするKS3 (Year 9) に設定されている。具体的に、「単元事例案」では、「観光による恩恵と損失 (Tourism – good or bad?)」³⁾ という単元名で示されている。

単元の概要は次のように示されている。

この単元では、観光という特異な経済活動を取り上げ、変化する形態とその経緯を検証する。また、観光産業による国民経済への貢献について経済の発展状態が異なる国々を取り上げ考察する。経済状況が対照的な二つの事例を考察し、急速に発展している観光産業による恩恵と損失を、社会的・経済的・環境の見地から評価する。また、将来、観光地を管理し続けることが可能かどうか、並びにその意義について検討する。

一方、ねらい（主に理解に関する内容）については、下記の三点が示されている。

- ①観光地を形成する地理的パターンや過程、また観光に依存している観光リゾート地や国にもたらされる変化。
- ②経済先進国と経済発展途上国における観光産業のメリットとデメリット。
- ③環境に対する相反した需要が与える影響。

さらに、子供をこれらの理解へ到達させるために、次のような指導計画案が明示されている（表1）。

指導計画案では、三次構成で計画が示されてお

り、主な問い（MQ）として、三つ示されている。

MQ1（観光とはどのようなものか？経済活動としての観光事業はどのぐらい重要ですか？）では、休祭日を種類別に分類したり、季節の雇用における相違点や観光産業が様々な国に対してもたらしている貢献度について考察したりすることを通して、産業としての観光の特色や経済活動としての観光の重要性について認識させる構成となっている。

MQ2（観光はどのように変わりつつありますか？また、それはなぜですか？）では、過去30年間におけるイギリスの観光産業の特色や変化、及び変化した理由や地域や人々にもたらした影響について考察することを通して、観光産業の経済活動における変化の様式や、それらをもたらした過程及び影響について認識させる構成となっている。

MQ3（観光の影響とはどのようなものですか？そしてそれはよいものですか？それともよくないものですか？）では、経済先進国と発展途上国における観光について比較することを通して、観光がもたらす正負の影響について認識させるとともに、それらの理解を踏まえ、持続可能な未来を確実にするための観光産業の経営管理について提言したり、具体的なリゾート地を事例に、現在抱えている問題を把握させ、その改善に向けてどうすべきか、地元観光局という立場を想定して経営管理戦略を提案させたりする学習が企図されている。

このように「単元事例案」では、経済活動としての観光の重要性や観光産業がもたらす影響について学習することを通して、持続可能な観光を実現するための方策について、提言できる能力の育成がめざされている。その際、単元の概要に示されているように、観光産業による恩恵と損失を、社会的・経済的・環境の見地から多面的に評価したり、将来、観光地を管理し続けることが可能かどうか、並びにその意義について経済先進国、経済発展途上国、環境保護論者、地元観光局等、様々な立場を想定し、多角的に考察したりする学習活動が計画されているのである。

表1 単元「観光による恩恵と損失」の指導計画案

	学習内容	想定される教育活動	学習活動	留意点
第一次	MQ1: 観光とはどのようなものか? 経済活動としての観光事業はどのぐらい重要ですか?			
	<ul style="list-style-type: none"> 地図や図表を用いて証拠を示すことができるように、適切なグラフの手法を選択・活用する。 証拠の分析と評価を行い、結論を出し、その妥当性を示す。 休祭日をタイプ別に分類する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス全体で、休祭日に関する案を出し合う。出てきた案をタイプ別に整理する(例えば、家・海外・観光・冒険・三食付きの宿泊・素泊まり等)。 季節的失業に特徴付けられる休祭日を1つ選び、それが支える全ての雇用について皆で案を出し合う。生徒には、この情報について説明ラベルを貼り付けた冬と夏の二つの図表を用いて発表させること。 経済先進国及び経済発展途上国に属する国の中から特定の国を選び、観光事業がこれらの国にもたらす貢献の度合いを示す統計データを与える。生徒には、その情報を適切な地図・グラフ・図表を用いて発表することを求め、更にその説明や推測についても述べさせること。生徒によっては、どのような図表を用いれば良いのか、より構造化された支援または書面を用いた指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 休祭日の種類を明確化する。 季節的雇用における相違点や、観光産業が様々な国に対してどのように貢献しているかを示す図表及び地図を作成・提示する。 	<p>数学: 様々なグラフやチャートを用いてデータを解釈し、説明する。</p>
第二次	MQ2: 観光とはどのようなものか。経済活動としての観光事業はどのぐらい重要ですか? また、観光はどのように変わりつつありますか。そして、それはなぜですか?			
	<ul style="list-style-type: none"> 証拠の分析と評価を行い、結論を出し、その妥当性を示す。 報告書を書く。 経済活動における変化の様式や、それらをもたらした過程と影響を考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去30年間におけるイギリス観光産業の特徴の変化について、さまざまな統計を用意する(例えば、需要総計、休日のタイプ、目的地等)。 こうした情報を利用して生徒たちに報告書を準備するよう求め、主要な変化や傾向、理由に注意を向けさせる。そして人々とその地域にどのような利益(または不利益)をもたらしたのか。書くことが苦手な生徒にはレポートを書かせるのにもっと体系的な指導が必要で、口頭で発表をさせるようにしてもよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去30年間にイギリスの観光産業がなぜ、どのように変わり、人々と地域にどのような影響をあたえたのか、レポート(または口頭発表)で説明する。 	<p>数学: 生徒はデータを解釈し、結論に導く。</p> <p>学ぶための言語: この活動は、証拠や付加的な事実を用い、生徒たちに要点を詳しく説明する機会を与えると同時に、単元導入からレポートを書く際のポイントを生徒たちに注意する。生徒に共通のアウトラインによる構成も認める。必要であれば、書くのが苦手な生徒には書く骨組みを与える。</p> <p>ICT: 発表は視覚覚機器で補足可能で、発表機器の利用や多様なメディアの利用を認める。</p>
第三次	MQ3: 観光の影響とはどのようなものですか? そしてそれはよいものですか?それともよくないものですか?			
	<ul style="list-style-type: none"> 地理上の質問をし、調査の適切な流れをアドバイスする。 二次的な資料を使う。 調査対象地域の地理的状況を決める。 経済発展の状況が異なる国々で観光を比較する。 観光産業の持続可能な発展のあり方について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラスを二つに分ける。半分は(グループ作業)イギリスの観光地での観光産業について短い質問を行い、あと半分は発展途上国のリゾートの観光について質疑を実施する。肯定的や、否定的な影響に集中する。テーブルで自分たちの調査を発表するようにし、意見を共有する。 質疑の一環として、生徒に適切な質問を確認するよう勧める。例えば、「そのリゾートはどんな様子ですか。」「そのリゾートは誰が行きますか。訪問者数は、どのように、なぜそのリゾートは社会的に、経済的、環境的に利益を得て、または不利益を被りますか。」「作業が進むにつれ、黒板や壁の表にキーとなる情報を加えるように求める。比較を要約し、文書または口頭での比較の基礎として利用することも可能である(単元12『国のイメージ』参照)。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究対象となっているリゾート地の国内状況、世界的状況を正確に述べる。 経済先進国と経済発展途上国のそれぞれにおける観光産業のプラス効果とマイナス効果を区別する。 様々なリゾート地に関する研究発表について意見交換する。 より持続可能な未来を確実にする為の観光産業の経営管理に対する提言をする。 	<p>できることなら、この活動は三人一組のグループで行わせる。</p> <p>学ぶための言語: この学習活動は生徒たちに、矛盾する証拠について議論・評価した上でよく考え抜いた見解に達する機会を与える。</p> <p>正式な手紙のレイアウトや書式を再度学習する必要のある生徒もいることでしょう。</p>

	<p>・各リゾート地がどのような問題を抱えているかについて理解させたら、生徒に、そのようなリゾート地が今後いかにしてメリットとデメリットのバランスを保っていくべきか(持続可能な発展を遂げながら)を述べるよう指導する。生徒に自分たちは環境保護論者で地元観光局宛に将来の経営管理戦略を提言する手紙を作成すると想定させ、下記ワークに取り組ませる。</p>	<p>・持続可能性についての意見を正式な書式の手紙にまとめる。</p>	
--	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------	--

(DfES, 2007 をもとに佐藤作成)

2. 持続可能な社会の形成者育成をめざす観光学習の授業構成論

以上、イングランド地理教育における観光学習の「単元事例案」の分析結果を踏まえ、持続可能な社会の形成者を育成するための授業は、下記のように構成されよう。

第一段階は、現代観光の現状を認識と経済活動としての観光産業の重要性について認識する段階である。ここでは、具体的に、現代における観光の現状とその意味、経済活動としての観光産業の重要性について、認識させることをめざす。

第二段階は、観光及び観光産業がもたらす影響について認識する段階である。ここでは、近年の観光客数の増加や観光産業が注目されている背景について考察するとともに、観光がもたらす正負の影響について、認識させることをめざす。具体的には、経済先進国と発展途上国の両方の事例を取り上げ、観光及び観光産業がそれぞれの国にどのような影響を与えるのか、観光による恩恵と損失について社会的・経済的・環境的見地から多面的に考察させる展開とする。

第三段階は、持続可能な観光を実現するための方策について、提案する段階である。ここでは、第一・第二段階で獲得してきた知識をもとに、持続可能な観光を実現するためにはどうすべきか、実現可能な提言(方策)を考えたり、議論したりすることを通して、環境と観光開発を相反するものとして捉えるのではなく、互いに依存するものと捉え、環境を保全してこそ将来にわたって観光開発の実現ができるという認識とその認識に基づく思考力の育成をめざす。

以上、本研究では上記の三段階を授業に組み込んだ授業構成とすることにより、持続可能な社会の形成者育成をめざす観光学習となりうると判断した。

(佐藤克士)

III 授業開発と授業の実際

1. 単元名：環境を守るわたしたち

—持続可能な観光と街づくり—

2. 単元の目標

【知識・技能】

- ① 観光地で生じている観光公害は、地域の社会、経済、環境の側面から解決すべき課題であることを理解することができる。
- ② 生活環境の保全のために、行政や住民が協力して行っている様々な取り組みについて、理解することができる。

【思考・判断・表現】

- ① 観光公害の具体的事例について、その原因や被害の実態、改善に向けた取り組みについて、各種資料をもとに自分なりの価値判断を下すことができる。
- ② 環境問題は産業の発展や都市化の進展に伴って生じたことや、人々の生活環境を守るための取り組みの重要性について、多面的・多角的に考えることができる。

【人間性・学びに向かう力】

- ① 環境問題を主体的に調べようとするとともに、観光と環境の共生について考え、より良い

社会を作っていこうとしている。

- ② 観光公害の実態を捉え、地域社会の問題に対してより良い解決に向けて意欲的に考え、友達と解決に向けた話し合いをしていこうとしている。

3. 単元の概要

本単元は小学校第5学年「私たちの生活と環境」に該当する。観光を切り口に社会に内在する環境問題を取り上げ、その解決策（持続可能な社会の実現）に向けて、事実に基づき考察したり、対話的・協同的に議論したりすることを企図する構成とした。具体的には、地域社会に内在する観光問題を持続可能な観光の実現という視点で考察することを通して、持続可能な社会の形成者として求められる資質・能力の育成に寄与する展開を構想した。

観光は、地域経済の起爆剤としても欠かせない一方で、観光問題は今の社会が抱える様々な問題に直結していることが多い。行き過ぎた観光振興は、観光地に住む人々の生活環境や、景観そのものを破壊しかねないことが危惧されている。いわゆる観光公害である。観光公害とは、地域住民の生活において、交通渋滞やごみ・騒音問題、景観の破壊や治安の悪化など負の問題を及ぼすことである。近年、日本を訪れる外国人観光客の増加と合わさって大きな社会問題となっている。

本単元では観光公害に着目し、観光がもたらす正負の影響に関する認識と持続可能な観光を実現するための方策について考えさせる単元を構成した。永田(2013)は、公害では、地域を発展させたいという経済発展と地域の生活環境を守るという環境保全の価値観が対立すると指摘しており、観光が起因する公害問題も同様であると捉えている。そこで、観光公害の問題が報告されている世界遺産登録地域を事例として、その実態と原因及び社会的・経済的・環境的な側面の影響について調べる。その上で、持続可能な社会や地域の発展をめざした施策の妥当性について価値判断する学習を計画した(表2)。

4. 授業の実際

第一次：日本の観光の現状と経済活動としての観光産業の重要性について認識する段階

第一次は、経済活動としての観光産業の重要性について認識する段階である。具体的には、インバウンドの現状と外国人観光客の観光動向を把握させ、子供に日本の観光について関心をもたせることをめざした。その際、日本の環境問題の一つである観光公害を取り上げ、国内の観光地で生じている観光公害の現状を捉えさせる構成とした。

第1時は、日本の観光に関心を持たせることをめざして展開した。上記のねらいを達成するために、訪日外国人観光客が急増していることを資料①から読み取らせた上で、「訪日外国人観光客の急増は国や自治体にとってどのようなメリットがあるのか」と発問した。これは外国人観光客の増加が観光地にもたらす正の影響を認識させるためである。この発問に関して子供からは「観光客がたくさん来ると観光地の飲食店や宿泊施設等に経済効果をもたらす」という意見が多数挙げられた。また、「観光客がたくさん来ると観光関連の仕事が増えて働く場所が増えるのではないか」という意見が出された。これらの意見は、地域の社会・経済の側面からプラスの効果があるという意見と解釈することができる。

第2時は、世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の観光について、社会的・経済的・環境的側面から評価及び考察させることをめざして展開した。資料③及び④をもとに、白川郷萩町地区が、世界文化遺産に登録された後に観光客数の大幅な増加があった事実と、観光に関わる商業施設もそれに伴い増加したという事実を把握させた。その上で、資料⑤を参考にして「世界遺産登録されることのメリットとデメリットは何でしょう」と発問をした。子供からはメリットとして、経済効果や知名度が高くなった、郷土を自慢できるという意見が出された。一方のデメリットとして、伝統的な街並み景観の維持に苦勞し、観光客のマナーの悪さによって生活環境が悪化すること(感想1, 2, 3)、商業主義的な面が強まることや景観破壊を危惧すること(感想4)、将来におい

表2 単元計画（全6時間）

※下線はMQ

過程	教師による主な発問・指示	教授・学習過程	予想される子供の反応
第一次 日本の観光の現状と経済活動としての観光産業の重要性について認識する段階 2時間	1. 日本を訪れる外国人観光客はどのくらいいるのでしょうか。	T: 発問する C: 資料①をもとに調べ、発表する	C: 2017年になると2800万人を超える外国人が訪れている。 C: 2012年は1000万人に達していなかった。
	2. 国内で、外国人観光客がたくさん来ることのメリットは何でしょうか。	T: 発問する C: 予想し、発表する	C: 外国人と交流できると楽しい。 C: 飲食店などのお店が繁盛する。 C: 外国人に認められると嬉しい。 C: みんなに優しい街づくりができる C: 地元で仕事が生まれる。 C: 地域に経済効果が出る。
	3. 日本を訪れる外国人観光客は、どのような旅行をしているのでしょうか。 ・日本で楽しみにしていること ・頼りにする情報は何か	T: 発問する C: 資料①をもとに調べ、発表する	C: 日本食やショッピング、街歩きを目的して訪れる人が多い。 C: SNSやロコミを頼りに旅行している人が多い。 C: wifiがあれば、素早く情報を手に入れて観光できる。
	4. 日本で登録されている世界遺産の場所と名称を地図で確認しましょう。	T: 発問する C: 資料②で確認する	C: 日本には18件の文化遺産と4件の自然遺産が登録されている。 C: 富士山は世界文化遺産に登録されているが、なぜ自然遺産ではないのだろうか。
	5. 「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の場所を、地図帳を使って調べましょう。	T: 指示する C: 地図帳で確認する	C: 白川郷は岐阜県で、五箇山は富山県にあるから場所は離れている。
	6. 世界遺産である「白川郷・五箇山の合掌造り集落」の現状について整理しましょう。 ・地図や資料から白川郷萩町地区の世界遺産に登録される前と登録された後の変化についてまとめましょう。	T: 解説と発問をする C: 資料③及び④をもとに考え、グループで話し合う	C: 世界文化遺産登録前と後では観光客がずいぶん増えている。 C: 観光客が訪れ過ぎて様々な問題が生じていると書いてある。 C: 観光客が多すぎて、住んでいる人が困っている。 C: 駐車場から観光する集落が離れている。なぜだろうか。 C: 集落にある家では、お土産屋や民宿などをするようになった。
	7. <u>世界遺産登録されることで、どのようなメリット、デメリットがあるのでしょうか。その意義を考えましょう。</u>	T: 発問する C: 資料⑤をもとに考え、発表する	<メリット> C: たくさんの観光客が来てくれて、町が賑やかになった。 C: 道路交通網が整備された。 C: 宿泊したり食事をしたり、お土産を買ったりと、お金を地元がたくさん落としてくれる。 C: 地元を誇りに思い、愛着が増した。 <デメリット> C: 観光公害という言葉があるように、観光客が多すぎて住んでいる人が困るなんて信じられない C: ごみのポイ捨て問題や騒音問題が起きている。 C: 交通渋滞や駐車場問題などが生じていて生活環境が悪化して困っている。

第二次 観光及び観光産業がもたらす影響について認識する段階 3時間	8. 京都市を訪れる観光客はどのくらいいるでしょうか。	T: 発問する C: 資料⑥をもとに調べ、発表する	C: 日本人観光客と外国人観光客を合わせると、5000万人以上の観光客が訪れている。 C: 海外から魅力が評価されている。 C: 修学旅行生もたくさん訪れる。
	9. 観光客が京都市を訪れる目的を考えましょう。市に観光客が来ることでの良さはどこなところでしょうか。	T: 発問する C: 地図帳や資料①をもとに予想をする	C: 市内に世界遺産がたくさんある。 C: 日本を代表する有名な神社たくさんある。 C: 京都の街並みは、昔ながらの日本らしさがある。 C: 経済効果と、街が賑やかになる。
	10. 京都市では観光客の増加で様々な問題が生じています。どのような問題があるのかを調べましょう。	T: 資料⑦を掲示してから発問する。 C: 資料⑧やインターネットをもとに調べる	C: 外国人観光客のマナー違反があるから困っている。 C: 住んでいる人が路線バスに乗れなくて困っている。 C: 桜のライトアップも中止になってしまった。
	11. 京都市は観光公害の対応策として、宿泊税を導入しました。その理由について資料を読んで確認しましょう。	T: 発問する C: 資料⑨及び⑩を読んで分かったことを発表する	C: 何泊もすると、結構な負担になる。 C: 海外の都市でも実施している。 C: 東京都も実施している、結構な税収になっている。
	12. <u>宿泊税の導入に賛成ですか、反対ですか。考えをまとめましょう。</u>	T: 発問する C: 自分の意見とその理由を整理し、発表する	C: 思ったよりも安いから、導入しても問題ないのではないか。 C: 余計なお金はできるだけ払いたくないから反対。 C: 住民の生活を守るためにはお金も必要だから賛成。 C: 45億円も税収が増えれば、いろいろな対策ができそうだ。 C: 観光客だけならいいけれど、仕事で来た人もとられるから反対。 C: 宿泊税を取ることで観光客が来なくなる心配も出てくるから反対。
13. 宿泊税導入のメリット・デメリットを踏まえながら、京都の観光公害対策について、ワールドカフェ方式で話し合ひましょう。	T: 指示する C: グループに分かれて話し合う	C: 現状だと観光客によって地域も地元住民も悲鳴をあげることになる。宿泊税の導入は、地元のためになる。 C: ぼくは反対だったけれど、他のグループの意見を聞いていくと、賛成でもいいと思う。 C: 観光客と住民が仲良くするにはどうしたいいだろう。 C: 観光客を入場制限した方がいいのではないか。 C: 住民と観光客のバスを分けて運行するよにする。	

第三次 持続可能な観光を実現するための方策について提案する段階 1時間	14. 都内 20 か所の中で、吉祥寺・三鷹を訪れた外国人は何位くらいでしょうか。順位で答えましょう。	T: 発問する C: 予想してから資料⑩で確認する	C: 表では、1位は新宿・大久保、2位が銀座、3位が浅草だけど、吉祥寺も同じくらい来ているのでは。 C: 17位になっていて、思ったよりもたくさん訪れている。
	15. 吉祥寺の観光で人気の場所をガイドブックや地図から探しましょう。	T: 指示する C: 資料⑫をもとに考える	C: ジブリ美術館や井ノ頭公園に行ったことがある。 C: 商店街にある有名な食べ物を目当てで訪れる人もいる。 C: カフェ巡りは人気がありそうだ。 C: 英語や中国語のパンフレットや案内板もある。
	16. 吉祥寺で観光に携わっている人のお話から武蔵野市の観光の特色や現状について考えましょう。	T: 指示する C: 資料⑬を読んで確認する	C: 市はもっと観光客に来てもらいたいと思っている。 C: 市の魅力やイベントの情報発信をたくさんしている。
	17. <u>吉祥寺で観光公害が起こらないように、これからの吉祥寺の観光に提案できることがあるか考えてみよう。</u>	T: 発問する C: グループで話し合った後に、全体で確認する	C: 外国人観光客も増えている。 C: 多くの観光資源が市にはあるといっているけれど何かあるかな。 C: 観光公害のような社会問題になるような状況はないようだ。 C: バスや電車などの交通網を整備して、住民に迷惑がかからないようにする。 C: 宿泊税をとって、交通整備の費用にしてもいい。 C: アニメやドラマのロケ地で有名なのをPRする。 C: クリーンセンターでイベントを行っていくように、今あるものを観光名所になるようにPRすることもできるのでは。
18. <u>グループで出し合った提案の中で、市の観光機構に提案したい最も効果のある考えはどれですか、あなたが選んだ提案とその提案を選んだ理由を説明して下さい。</u>	T: 発問する C: 全体で話し合う	C: 大学や市の施設を観光資源として扱うこともできるのでは。新たな価値を見出して楽しむことができれば、観光客が一点に集中しなくて人で渋滞することはないはず。 C: 土日は必ず歩行者天国にして駅前で大学生がイベントを開催すると良い。観光客もたくさん来るだろうし、駅前だから、交通手段を使わずに吉祥寺を楽しんでもらえる。	

【資料】

① JNTO(2018)「第4章 訪日旅行の動向」、『訪日旅行データハンドブック 2018(世界 20 市場)』, pp. 660-685. ②国内の世界遺産マップ(教科書地図帳より筆者作成, ③白川郷観光協会観光マップ 2018, ④白川村観光振興課『白川村の観光統計 2018』及び神田孝治編(2009)『観光の空間: 視点とアプローチ』ナカニシヤ, を参照に筆者が作成した資料, ⑤朝日新聞朝刊 2011年6月21日「世界遺産 楽じゃない」, ⑥「2017年京都観光総合調査」京都市産業観光局, ⑦都祇園付近のバス停の写真(筆者撮影 2019年2月), ⑧朝日新聞夕刊 2017年6月14日「京都観光客爆増に悲鳴」, ⑨日本経済新聞朝刊 2017年10月2日「宿泊税, 訪日客増が追い風」⑩読売新聞 2018年10月7日「宿泊税 京都の切り札」, ⑪東京都(2018)『平成 29 年度国別外国人旅行者行動特性調査』, ⑫武蔵野市観光機構(2018)『ガイドブック』及び『ガイドマップ』, ⑬武蔵野市の観光に携わる方からの話(筆者の聞き取り調査より作成 2019年1月)

表3 授業展開における主な子供の感想

第一次	感想1	今の景観を保護するべきである。せっかく世界遺産になったのに、そのまま発展すると台無しになってしまうから。だけど、発展もさせないともうからないし、訪れてくれた人がつまらなくなることもあるのが心配。
	感想2	発展をすれば保護が遅れてしまう。逆に保護をすると発展ができなくなってしまう。だが、世界遺産となったことにより、いろいろなことに対して悪化している現状は理解できなくはない。仕方ないのだろうか。
	感想3	せっかく世界遺産になったのに、発展を目指すのは少し違うと思う。人々が観光目的で来ると街が活性化するかもしれないけれど、住んでいる人にとっては迷惑なことも多い。どちらがいいのだろう。
	感想4	観光化してしまったことで、本来保存すべき景観が、変わってきてしまうかも知れない。そうすると、今の街並みや景観は守られないのではないかと心配になる。
	感想5	世界遺産にして地域の発展や経済効果をねらったかも知れないけれど、逆に自分たちに被害が出てくると思う。だから制限をかければよいのではないか。
	感想6	観光客の数を制限するべきだと思う。ゴミ捨てについて捨てないように厳しく取り締まるべきであると思う。
	感想7	世界遺産になると人気上がる。だけど、観光客が来すぎることによって住民が困るのは良くないのでは。
	感想8	観光客が来ることはとてもうれしいことだけど、それによって住民が困っているならよくないことである。生活する人が優先でなくてはならないと思う。
第二次	感想9	経済面や知名度が上がっても、生活に影響が出るくらいなら観光は悪だと思う。だからぼくは賛成である。宿泊税を導入すれば、観光客が少しは減るかもしれない。そして減ったことでも混雑や自然破壊、ごみ問題を少しでも解決できると思う。
	感想10	宿泊税によって集めたお金で観光公害を少しでも減らせるなら、お金は払えます。今の京都市の観光の状況は良くないと思うから賛成です。
	感想11	僕は導入することに対して賛成です。理由は、外国人観光客が年々増えているし、そのせいで騒音やごみ問題が増えています。宿泊税を導入すれば訪れる外国人が減るかも知れませんが、でもそうしたら観光公害が起りにくくなるので、導入した方が良くと思います。逆に宿泊税を導入しないと、観光公害は全国各地に及んでしまいます。
	感想12	宿泊税導入に賛成です。このまま京都が荒らされる所を、ずっと見ているだけではダメだから、何か行動を起こさなければならぬ(宿泊税のお金で問題を解決できる)。仮に、観光客が減る可能性があったとしても、日本を代表する都市である京都を壊すわけにはいかない。でも、宿泊税を出張の人も払うのはおかしいので、出張の人だという証明書を作り、その人は税金を払わなくてもいいようにするべきである。
	感想13	ぼくは反対。宿泊するぼくらはお金を払っただけで、外国人観光客への対策をしてもらっても何の得にもならないと思うから。それに宿泊税がかかると、地元の観光客はもちろん、外国人観光客も嫌がってこなくなるのではないか。
	感想14	反対です。宿泊税に頼る前に、神社や寺院へ入場規制するなどして、混雑させないことをした方が良くし、マナーを良くしようと呼びかけることから始めても良い。
	感想15	マナーを守っていなかった時に払うのはどうだろうか。例えばホテルのチェックアウトの時にホテルの人が部屋をチェックし、マナーを守れていなかった場合は、宿泊税を払ってもらおう。もし、マナーが守れていた場合は、宿泊税は払わなくてもよい。
	感想16	バスを住民用と観光客用に使い分けて、観光客用だけ割増運賃を取ったらいいのでは。もしくは、観光する人が多い季節は割増運賃を増やすのもどうだろう。
第三次	感想17	観光客に負担してもらうのはいいけれど、出張で訪れたり、地元の人が泊ったりしても宿泊税が取られるのはおかしいと思うから反対。
	感想18	有名なお店やおすすめの場所がたくさん書いてあった。私達が知らない店や、店の詳細が書かれていて便利。日本語だけでなく英語や中国語で書かれたパンフレットがあったし、地図やイラストが工夫されていて歩くのが楽しみになる。
	感想19	吉祥寺には、吉祥寺オリジナルの品物がとても多かった。おしゃれなカフェをはじめ、いろいろな飲食店がある。それを目当てに観光客が吉祥寺を訪れるのだと思う。
	感想20	観光では社会的・経済的なメリット面ばかりを優先してしまうけれど、地域の生活環境を壊したり、住民の生活を悪化させたりすることにもつながってしまう。でも、社会的・経済的なメリットと環境は真逆なものではないはずで、この3つの面をもっと大事にして考えていかないと、持続可能という言葉は成立しないと思った。

(内川作成)

て街並みが存続・維持できなくなるのではないか（感想5）という意見が出された。しかし、子供は住民の立場と観光客の立場による考えの相違や対立した概念の中で、ジレンマを抱えるようになっていった（感想6, 7, 8）。

第二次：観光及び観光産業がもたらす影響について認識する段階

第二次は、観光及び観光産業がもたらす影響について認識する段階である。ここでは、近年の観光客数の増加や観光産業が目まぐるしく注目されている背景について考察するとともに、観光がもたらす正負の影響について、認識させることをめざす。具体的には、国内の世界遺産登録地を事例として取り上げ、観光が地域にどのような影響を与えるのか、観光による恩恵と損失について社会的・経済的・環境的見地から多面的に考察させた。

第3時は、京都市内の観光資源の魅力を把握した上で、京都市内で生じている観光公害の状況を事例として、上記の課題を認識させることをめざして展開した。京都市を訪れる観光客数を予想させた上で、観光客が京都市を訪れる目的と、市に観光客が訪れることの良さについて話し合った。観光客が訪れる良さとしては、①観光振興が人的交流や賑わいを生み出すこと、②観光客が街の商店や飲食店を利用することによって、経済的なメリットがもたらされること、③観光業に従事する人が増えることは市にとって貢献度が高い、といった点があげられた。次に、「京都市では観光客の増加で様々な問題が生じているが、どのような問題があるのでしょうか」と発問をした。子供は資料⑧やインターネットで事実を把握する中で、主に環境面に関する問題点を挙げていた。例えば、京都市は外国人観光客の増加によって路線バスの乗車に関するトラブルが発生していること、市場や街中での食べ歩きのマナー違反があること、桜のライトアップの中止や落書き問題等である。

第4時は、観光公害対策として京都市が2018年10月から実施した宿泊税の是非について、資料をもとに価値判断させることをめざして展開し

た。具体的には、資料⑨及び⑩をもとに京都市が実施した宿泊税の導入経緯や、導入したメリットとデメリットについて考察させる展開とした。結果的に、多くの子供が賛成意見であった（感想9, 10, 11, 12）。賛成意見は、観光における恩恵を享受するためには、住民や観光客も関係なく誰もが負担し合うことが必要であるとする考えである。また、宿泊税は観光公害対策のみならず、結果的には魅力ある街づくりにつながっていくという意見も見られた。一方、反対派は少数であった。反対意見としては、例えば、観光客以外の市民にも金銭的な負担を求めてしまう点を懸念する意見が見られた。それらの意見をもつ子供の中には、宿泊税を徴収することが必ずしも観光公害を防ぐことにつながるわけではないと主張する考えも見られた（感想13）。さらに、その代替案として、例えば市内の観光施設で一日の入場者を制限することや更なるマナーの啓発に努めた方が良いとする考えが出された（感想14）。

第5時は、前時までに関心を持った意見をもとに深め、観光公害の対策案を提案させることをめざして展開した。本時は宿泊税の導入に賛成か反対かをテーマとして、より自由な意見交換をするためにワールドカフェ方式⁴⁾で話し合い活動を行った。まず、宿泊税導入の論点について前時までに出された意見をもとに整理させた。その上で、賛成か反対かのいずれかの立場に立って導入の是非について検討させ、意見交換を重ねた（感想15, 16, 17）。いずれのグループも宿泊税だけに頼るのではなく、観光公害を起こさないためにできる対応策があるのではないかと、という視点に立って話し合いを進めた。批判的な思考に基づきながら、さらにより良い解決策を導こうとする思考のプロセスが確認された（図1）。

第三次：持続可能な観光を実現するための方策について提案する段階

第三次は、持続可能な観光を実現するための方策について提案する段階である。ここでは、第一・第二次で獲得してきた知識をもとに、持続可能な観光を実現するためにはどうすべきか、実現可能

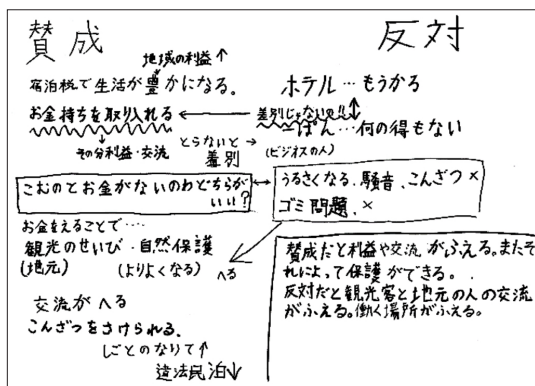


図1 宿泊税について賛成か反対か

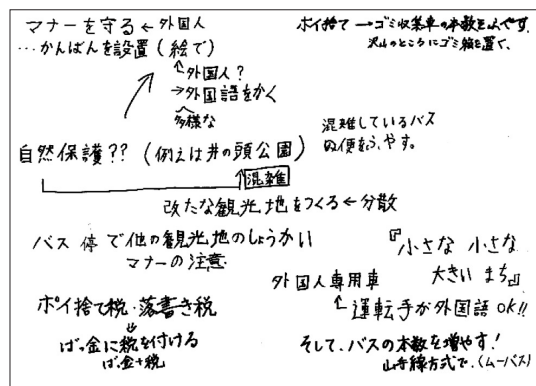


図2 吉祥寺の観光公害を防ぐ

な提言（方策）を考えたり、議論したりすることを通して、環境と観光開発を相反するものとして捉えるのではなく、互いに依存するものと捉え、環境を保全してこそ将来にわたって観光開発の実現ができるという概念の獲得をめざす。具体的には、これまで学習してきた観光公害がもたらす影響を踏まえて、身近な地域の観光の現状を評価しながら、さらには将来的に持続可能な観光が行われるように、現在の取り組みと今後の施策について評価・検討させる構成とした。

第6時は、武蔵野市の観光の現状を把握して、今と未来を踏まえた武蔵野市の街づくりに提案させることをめざして展開した。まず武蔵野市観光機構が発行している観光ガイドブックや地図等から、地域のスケールと吉祥寺の観光資源について把握させた（感想18、19）。その上で、吉祥寺の観光の現状を捉えるために、武蔵野市の観光関係で働く人に聞き取った話を資料として配布し、「吉祥寺で観光公害が起らないように、これからの吉祥寺の観光に提案できることは何か」と発問した。グループの話し合いでは、主にルール作りやマナーの啓発、交通機関を活用した提案などが出されたり（図2）、持続可能な観光のためには、社会的・経済的なメリットと環境の3つの側面をもっと大事にしていけないといけない、という意見が出されたりした（感想20）。子供が提案

したアイデアの実現のためには、例えば、学級全体で提案の妥当性や実現可能性について批判的に検討したり、市役所の方を教室に招き、提案内容を客観的に評価してもらったりする等の学習活動を深化させることが重要であろう。本単元では、授業時間のそこまで踏み込んで計画・実践できなかったものの、子供から持続可能な観光の実現という視点に基づき、未来志向な提案や意見が多く出された点については、本単元が持続可能な社会の形成者の育成に寄与する社会科観光学習として、一定の成果が得られたと考えている。

（内川 健）

IV 結論

本研究の目的は、持続可能な社会の形成者育成をめざす社会科観光学習の授業構成論を措定するとともに、措定した授業構成論に基づき単元計画を立案し、実験授業を通して、その有効性を検証することであった。この目的を達成するために、地理教育先進国であるイギリス地理教育における「単元事例案」の分析を行い、その成果をもとに授業構成論を措定するとともに、措定した授業構成論を参考に、小学校第5学年「環境を守るわたしたち—持続可能な観光と街づくり—」の単元計画を立案し、その有効性を成蹊小学校にて検証した。検証の結果、本研究でめざしていた「日

本の観光の現状と経済活動としての観光産業の重要性の認識, 「観光及び観光産業がもたらす影響」, 「持続可能な観光を実現するための方策」等の認識が, 子供の感想から確認され, 開発した単元計画が持続可能な社会の形成者を育成するプランとして一定程度の効果があったものと判断することができる。今後は, 措定した授業構成論を精緻化していくとともに, 他学年及び他単元における単元開発とその有効性について引き続き検証していくことが課題である。

(佐藤克士)

注

- 1) 例えば, 地理科学学会, 日本社会科教育学会, 日本地理教育学会などが挙げられる。
- 2) 単元事例案 (A Scheme of Work) は, 1991年にイギリスの教育科学省が教育科学省令 (order) として制定されたイングランド向けのナショナルカリキュラム (the national curriculum) に含まれているものである。日本でいう学習指導要領のようなもので法的拘束力を伴って導入された, 義務教育の内容に関わる公的基準である。社会科に関する地理や公民, 歴史の他にも美術や音楽など, その他の教科の単元計画例示案も示されている。
- 3) DfES 'Unit 19 Tourism - good or bad?' A Scheme of Work Geography at key stage 3, 2007. <URL> http://eduwight.iow.gov.uk/curriculum/foundation/geography/keystage3/Unit_19.asp (最終閲覧日: 2012年9月23日)。
- 4) ワールドカフェ方式とは, 話し合いの手法の名称である。4人1組のテーブルを囲んでそれぞれが座り意見交換をしたり席を移動したりすることでアイデアをより多くの人たちと交換する話し合いである。詳しくは, アニー・ブラウン&デイビッド・アイザックス (2007): 『ワールド・カフェ〜カフェの会話が未来を創る〜』 ヒューマンバリューを参照。

文献

- 荒井正剛 (2005): 中学校社会科地理的分野における外国地誌学習のあり方—イギリスの地理教育を参考に—して一。『新地理』53(3): pp. 1-19.
- 飯塚耕治 (2012): イギリス初等・中等教育におけるレジャー・観光への発展性について。『新地理』60(1): pp. 62-66.
- ト部匡司 (2011): ESD (持続発展教育) の教授原理とカリキュラム開発。『地理科学』66: pp. 96-100.
- 佐藤克士 (2012a): 小学校社会科における観光に関する学習内容の科学化—日英教科書分析を通して—。『新地理』60(2): pp. 1-18.
- 佐藤克士 (2012b): 持続可能な社会の形成者育成としての社会科観光学習: イギリス地理テキストブック “Horizon 2 Geography 11-14” を手がかりにして。『社会系教科教育学研究』24: pp. 21-30.
- 志村 喬 (2008): 『現代イギリス地理教育の展開—「ナショナル・カリキュラム地理」改訂を起点とした考察—』 風間書房: pp. 177-191.
- 志村 喬 (2018): 学校教育で「持続可能な社会づくり」を実現する教員養成のあり方—地理教員養成・研修をめぐる国際動向—。『科学』88(2): pp. 166-170.
- 玉村和彦 (1997): 新しい観光の考え方。長谷政弘編『観光学辞典』 同文館: p. 12.
- 中井 修・岩田一彦 (1996): イギリス『全国カリキュラム・地理 (Geography in the National Curriculum) の解題と全訳』。『社会科教育論叢』43: pp. 41-89.
- 永田成文 (2013): 『市民性を育成する地理授業の開発—「社会的論争問題学習」を視点として—』 風間書房。
- 文部科学省 (2008): 『小学校学習指導要領解説社会編』 東洋館出版社。
- 文部科学省 (2018): 『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説社会編』 日本文教出版。
- 安村克己 (2001): 観光教育の意味と教育体制の発展—“持続可能な観光”教育とその形成の経緯—。徳久球雄・安村克己編『観光教育—観光の発展を支える観光教育とは—』 くんぷる: pp. 9-20.

**Tourism Studies as Social Studies Focusing Sustainable Society:
An Analysis Based on a Scheme of Work for the Key Stage 3 Geography Curriculum in England**

Takeshi UCHIKAWA (Seikei Elementary School)

Katsushi SATO (Faculty of Education, Musashino University)

Keywords: sustainable society, geographical education in England, a scheme of work, elementary social studies, tourism studies